

FIG 第3分科会－空間情報管理(SIM) 作業計画 2007-2010

1. タイトル

空間情報管理

2. 参照とする定義

- ・土地、財産及び海洋データに関する空間情報管理(データ、道具、手法、政策、処理、手順)
- ・空間データ基盤・・・データ収集、分析、可視化、標準化及び普及(技術的、組織的、個人的、管理上、財政的及び法制度上)
- ・空間情報管理のための知識と技能の管理及び移転(教育的な、職業的な、開発と能力構築のための局面)
- ・組織的な構造への影響、ビジネスモデル、個人と公的な協力関係、職業的な実践および管理
- ・良好な政治を支援する空間情報の管理(持続可能な開発、社会経済的な成長と貧困の減少、環境保護、民主的、自由、意思決定への参加、社会保障)

3. コミッション3の使命

- ・良好な意思決定へ、認識可能であり、信ずるに足る、及び受諾可能な空間情報のような利益を呈する電子社会(e-Society)における空間情報管理の成功例が増加していることを広めること
- ・良好な政治を目指している意思決定へ、参加する測量技師やすべての人々へ空間情報及び空間情報管理の道具を使用することを支援すること
- ・情報を用いること、及び知識を普及する、データを扱うことによって必要とする管理プロセス及び基盤についての良い結果を得ている実践を共有すること
- ・電子政府及び電子商取引において、空間情報の使用を奨励すること
- ・FIGの内部もしくは外部にあって、地域会議、出版物、進捗報告の期間内において、ワーキンググループ、共同ワーキンググループ、特別委員会、年次会議、ワークショップ、及びセミナーを開催することによって、全体的なFIG作業計画を実装すること
- ・Webを通じて、コミッション3の作業の最終的な結果を明らかにすること
- ・関係する国連の委員会やその他地理空間情報社会及びこの分野で活発に活動する組織、例えば、国際写真測量とリモートセンシング(ISPRS)、国際地図学協会(ICA)、国際測地学協会(IAG)、グローバル空間データ基盤協会(GSDI)、ヨーロッパ地理情報協会(EUROGI)、国連ヨーロッパ経済委任委員会の土地管理に関する作業機関(UN/ECE)

WPLA)、国連のヨーロッパ経済委任委員会の国連の人間の居住と土地管理委員会 (UN-Habitat)等の組織と共同及び調和をはかること

- ・国連のミレニアム開発目標(MDGs)の実装に関して測量を職業とする人達の貢献度を増加させること

4. 全体

コミッション3及びこのワーキンググループは、持続可能な開発のために空間情報が貢献することに焦点を当てた活動を行う。コミッション3の主たる成果は、2010年までに配布される「空間情報が管理するメガ都市へ」というテーマの出版物で明らかにする。この目的のために、コミッション3は3回の特別年次ワークショップを次のサブテーマのもとで組織する。

1. 非計画的な都市開発を計画性あるものへ転ずる空間情報管理、2007年3月28-30日、アテネ、ギリシア(http://www.psdattm.gr/fig_Commission3_wpla.htm)
2. メガ都市の環境管理における空間情報、2008年1月、バレンシア、スペイン
3. セミナー2009 (テーマや会場は未定)

コミッション3の代表団は、次のような特別なワークショップ及び会議をこれらの FIG 作業週間及び地域会議の期間中、または単独でも必要に応じて追加していく予定である。

加えてコミッション3は、次の共同活動で貢献する予定である。

- ・ FIG 特別委員会(コミッション3、7、8、9、10をも含めて)は、「金融状況の改革を通じてスラム状況を改善する。充分であるか不十分であるかという観点からの余裕のある避難所と余裕のない避難所のギャップを埋める」2008年6月の FIG/UN-Habitat 開催のセミナーの準備を行う。
- ・ FIG 特別委員会(コミッション3、7、8、9をも含めて)は、地球土地ネットワーク (GLTN)の基本計画において、FIGとUN-Habitatと共同作業を行う。特にこの分野では、空間情報の道具の利用が増加しており、計画的でない都市開発や持続可能な都市化を促す低価格の手法の開発や、持続可能な開発に向けた政策、環境モニタリングを実施する予定である。コミッション3は、この特別委員会のために計画、開発やコントロールによく通じた技術者を用意し、手法及び道具を提供するであろう。

FIG コミッション3の代表団は、次の活動に強い関心を有している。

国の代表として、通信員及びアカデミックな関係者と共同で作業を行うためにも、関心のある共通の分野の必要性を認識し、共通の利益のために知識と経験を交換する特別であると認識したテーマに焦点を当てたコミッション3は年次会議及びワークシ

ワークショップを組織する。コミッション3は、コミッション3のワークショップに原稿を送った執筆者に対し、適切な二重の査読を行う用意がある。この二重の査読を望まない執筆者の原稿であっても、コミッション3のワークショップ論文集は平等に扱うことに変わりはない。コミッション3の代表団は、公的機関や民間企業からの派遣された代表団と密接な共同と調和をはかることにより、FIG アカデミックメンバの協力を得て、強固で価値ある関係を築きたいと考えている。

コミッション3の代表団は、次のような関心あるサブテーマを共有している。

- ・市民のため、民主主義のため、及び透明性ある社会のための電子政府(eGovernance)
- ・Web サービスとメタデータ
- ・空間情報基盤
- ・空間情報基盤の最高の技術水準
- ・空間情報基盤の応用としての3次元/4次元、情報の可視化、シームレスな情報の管理から情報の統合化という技術的な側面
- ・情報の標準化(技術、法制度、セマンティック及びオントロジー)
- ・空間情報へのアクセスする機会と等しく国家空間データ基盤(NSDI)の価格とアクセス機会を設けるような空間データの政策の立案
- ・社会経済的な成長、文化遺産及び計画的な開発、または非計画的な開発の管理、定量化と地域性ある文化の多様性、沿岸域と海洋データ管理、不動産市場、評価及び課税、不動産金融及び管理、災害管理及び危機アセスメント、環境保全のための空間情報の応用
- ・教育的な側面としての国家空間データ基盤と空間情報管理、遠隔教育
- ・空間情報収集と管理のための低価格である手法と道具に焦点を当てた知識の共有と技術移転

上記のような活動に加えて、コミッションは、FIG の特別委員会、標準化ネットワークを支援し、貢献したいと考えている。コミッションは、緊急の新しい課題に対しても、FIG 議会へ対応をはかっていきたいと考えている。

5. ワーキンググループ

以下、ワーキンググループ名のみ記して活動は省略

WG3.1 電子政府と電子市民

WG3.2 空間データ基盤

WG3.3 空間データ管理における多次元の課題

6. イベントの予定

2006 :10月30-11月4日 キプロス、37回 CIPA 国際ワークショップ、文化遺産における
情報技術の革新、21世紀のための危機と挑戦、ハイテクで過去に触れる

2007 :3月28-31日、FIG コミッション3年次会議及びワークショップ、アテネ、ギリシ
ア

5月13-17日、第30回 FIG 総会及び作業週間、ホンコン、中国

10月1-6日、第21回 CIPA 国際シンポジウム、アテネ、ギリシア

11月12-15日、FIG 地域会議、サンホセ、コスタリカ

6月27-28日、ウランバートル、モンゴル

2008 :1月、コミッション3年次会議及びワークショップ、バレンシア、スペイン

6月14-19日、FIG 作業週間、及び第31回総会、ストックホルム、スウェーデン

7月3-11日、第21回国際写真測量とリモートセンシング会議—画像からの情報の
ためのシルクロード、北京、中国

2009 :3月3-8日、ワークショップ及び FIG 作業週間と第32回総会、エイラト、イスラエ
ル

2010 :4月9-16日、FIG 会議及び作業週間と第33回総会、シドニー、オーストラリア

私見：

以上、翻訳した部分と省略した部分があるが、コミッション3は、頻繁に国際会議を開催
するとともに、国連の機関との共同作業、CIPA(文化遺産の登録、研究機関)とのワークシ
ョップの共催などで実施、活動の場が広がっていると見えよう。今後の4年間でのさらに
高い評価を受けるような実績を期待するとともに、日本側へも課せられた期待も大きいと
判断している。

(訳者) 平田 更一

JFS 第3分科会委員長

(社) 日本測量協会 GIS 研究所